

# 視察報告書

委員会名	市民福祉常任委員会
視察日時	令和元年 11 月 8 日（金） 9：30～11：00
視察先	富山県小矢部市
視察項目	小矢部市子育て支援施策について
視察参加議員	笹栗純夫、三嶋栄幸、後藤宏爾、加茂正彦、長田秀樹

## 視察先概要

富山県西部に位置する小矢部市は人口 30,004 人（平成 31 年 4 月 1 日現在）

市の面積は 134.07 km<sup>2</sup>（糸島市の約 0.6 倍）

富山県第二の都市・高岡市と石川県金沢市と接する街。

現在は通勤時間が 30 分圏内の隣接する高岡市や金沢市への通勤・通学率が高く、高岡市や県境を跨いで金沢市のベッドタウンを形成している。あいの風とやま鉄道と 3 つの高速道路（能越自動車道、東海北陸自動車道、北陸自動車道）が通る交通の便が良い地域として工業化が進み、市内の中心部には小矢部川が流れている。市内には主にヨーロッパの有名建築を模した保育所、小学校、中学校が立ち並び、「メルヘンの街」として有名である。

## 視察内容について

### ◇子育て支援施策

富山県は共働きの世帯が全体的に多く、国の子育て施策はほぼ行っているが、それとは別に富山県は「子どもの権利条例」を制定しており、富山県下の各市は独自の子育て施策を打ち出しているところもある。その中で小矢部市としては独自の事業があるわけではないが全体的に子育て支援は国施策・県施策・市施策をバランスよく行っている。

### <主な事業>

- ・妊産婦、こども医療費助成
- ・児童手当
- ・予防接種費用助成
- ・ひとり親家庭への支援
- ・発達相談
- ・家庭児童相談室
- ・一時預かりサービス
- ・病児保育サービス
- ・放課後児童クラブ
- ・ファミリーサポートセンター など

### ※とやまっ子子育て応援券

県事業ではあるが 0 歳から 2 歳までの子どもを持つ家庭に配布し、任意の予防接種や公的施設の入館料等に使える金券。

### ※妊産婦、こども医療費助成

この中での妊産婦に関してだが、妊娠中などの特定疾病に係る治療費の自己負担分の助成（切迫流産など）は珍しい事業である。

#### ※ファミリーサポートセンター

社会福祉協議会に約 200 万円で委託をして、事業を実施している。  
現在の館員数は、お願い会員登録 57 名 預かり会員登録 49 名  
どっちも会員登録 116 名 7 世帯で 377 回利用  
富山県は、共働き世帯が多いため主に子どもの送迎で利用されている。

#### ◇子どもの未来応援計画

「子どもの貧困」が上昇している現実、小矢部市として子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることがないよう、子どもが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して策定された。(富山県下 10 市中 8 市が策定)

ビッグデータにはなっていないが、H29 年に小学 5 年を持つ親 (93%)・中学 2 年を持つ親 (86%)・ひとり親 (48%)・就学支援家庭 (47%) にアンケートを取り、細やかな世代ニーズの調査データが生まれ、支援事業の課題と整理に役立っている。

※ (一%) はアンケート回収率

#### ※子どもの学習支援事業

NPO 法人に塾同様の学習サポートを行ってもらう  
1 回 3,500 円の 52 週。対象は小学 3 年生から中学 3 年生  
ひとり親世帯の子ども 150 人中 10 名が利用

#### ◇子育て支援コーディネーター及び保育コンシェルジュ

H27 年度より、保育士資格を持つ方で実質、小矢部市の保育施設に就労されていた方や所長先生の OB を臨時職員として従事してもらう。

※子育てに関する相談実績：611 件

#### ◇その他 (課題)

施設等については、昭和 50 年代に作られているものが多くあり、保育年齢の低年齢化や子供の減少などにより、ニーズとの齟齬が顕在化してきているとのこと。

富山県自体が、待機児童 (特定園希望等を除く) がいないため、大きな影響は出ていないが、保育士の確保は年々厳しくなっているとのことであった。

#### 本市にとって活用すべき事項・課題

施策の部分で言えば、小矢部市に比べ糸島市は子育て世代のニーズや問題点が多いため関係機関の連携や事業は進んでいる部分もあるように思う。しかしながら、市としてというよりも県としての子育てや妊産婦の考え方は富山県の方が進んでいる。「子どもの権利条例」の策定がいい例であると思われる。

子育てに関することがまとめて記載されている子育てガイドブックの製作などは、糸島市でもガイドブック作成の際に生かせる部分があるのではないかと考える。